

Title	近世資本主義起源考 ( 三 )
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.4 (1922. 4) ,p.500(68)- 504(72)
JaLC DOI	10.14991/001.19220401-0068
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220401-0068">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220401-0068</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 近世資本主義起源考 (三)

阿部 秀助

## 四

吾人の經濟生活上資本利子なるものが重要な意義を有する状態を資本主義又は資本主義的なる名稱を以て表現することはブルドン及び舊教側の論客に屢々見る處で殊に此點を以て資本主義其者の本質的特徴と見做すものはカール・ピヒヤーである。即ち彼の云ふ處によれば資本主義なるものは資本が其威力を發揮し總ての經濟的關係を特徴化する組織であるが然し此勢力は相互の極めて複雑な状態によつて實現せらるゝもので單に企業家と賃銀労働者の對立的状態に於てのみ存するものでなくて寧ろ總ての生産階級が資本家に對して支拂義務を有する點である。更に詳言すれば地主と家主とは十億を以て算ふる抵當資金の利子によつて鐵道と鑛山業とは其株券又はは鑛山株券の配當によつて農家と

製造家と商人とは彼等の經營的資本の割引貸付又はは勘定の利子によつて労働者は其賃銀の剩餘によつて最後に國家と市町村とは其公債の利子によつて何れも資本家に關係を有するものであると(一)而して貸付資金なるものが吾人の經濟生活上重要な意義を有するに不拘、未だ以て近世經濟生活の特徴として見做すこと能はざることをして以てするものは近世資本主義論の著者として有名であるソムバルト教授である。同教授は同著の最新版(三版)に於て次の如く論じて居るのである。即ち資本主義の概念から除去す可きものは經濟上の全過程に没交渉なる貸借關係である。即ち自己經濟の組織を有する地主階級を資本主義の内容に入るゝことの無意義なると共に吾人の日常生活上に於ける經濟の全過程に關係なき範圍内に於て公共の債務又は公共經濟等を資本主義の中に算入することは不合理である。尙ほ同時に手工業者が金主に隸屬することを以て其處に資本主義の存するが如く見做すのも同じく誤つた考であると云ふのである。(二)次に營利的財産と同一意義に使用した資本を基礎とした經濟的方法を名くるに資本主義又は資本主義的なる名稱を以てするものがある。例者サルトリッス・フオ

ン、ウルテルスハウゼンの如きは最近に於ける此傾向の代表者とも見做す可き人である。即ち彼は資本を以て利益を齎らすに必要な價值の總額となすと共に資本主義に對して次の如き言をなして居るのである。「歴史的の觀察は吾人に示すに資本なき時代の存することを以てする。所謂自己生産の如き幼稚の状態に於て經濟行爲の目的とする處は自己の慾望を直接に満足せしむるか然らずんば其者にとりて要をなす生産的手段を齎らす點に存するのである。又、交換の如きも以上兩目的の爲めに實現せらるるのである。然るに現時に於ける經濟的方法是は以上と異なつて資本主義である。何んとなれば各生産者の間には交換及消費に關して其處には營利的目的が存するのである」(三)と。更にリーフマーンの如きも「本來の資本主義的經濟時期の特徴とする處は企業的資本、換言すれば吾人が企業と稱する孤立的營利經濟の組織即ち營利經濟が消費經濟より打算的に分離し常に交換的經濟行爲を大ならしむる點にありと言つて居るのである。(四)斯くの如く資本主義を營利經濟と見做せしに對して第三の資本主義的意義は生産的手段としての資本に之れが根本的基礎を求めんとするものでベーム・バウエルクの資本論中

にある「資本主義的生産なる表現は二重の意義を有す。即ち之れが一は資本的物件(原料、道具、機械等)の補助に利用せらるゝ生産と他は企業家又は資本家の打算又は勢力の下に實現せらるゝ生産である。而して以上の兩者は一致せず。故に論者は資本主義なる名稱を以て第一の場合に適用せんとするものである。」の如きは之れが一例である。(五)更に資本主義的生産なる名稱の下に重要な意義を有するものはマルクス及マルクス主義者の見解である。然かもマルクスの資本觀は、彼れによつて與へられし自餘の概念と同じく吾人にとつて困難な問題であるが、要するに彼の所論を綜合して考察する時は資本は労働者を搾取することに適用せらるゝ生産的手段及生活必需品を意味すると共に資本主義的生産方法なるものはマルクスの剩餘價值論の命ずるが如き、特殊なる意義に於て資本なき労働者が資本家より搾取せらるゝ生産方法なりと見做せる點である。

1) K. Bücher, Die Entstehung der Volkswirtschaft. 12 u. 13 Auflage O. E. I. s. 145-146.

2) W. Sombart, Der moderne Kapitalismus. 3 Auflage. B. II. 1. s. 5.

3) S. v. Waltershausen, Das volkswirtschaftliche System der Kapitalanlage im Auslande. s. 10.

4) R. Liefmann, Grundsätze der Volkswirtschaftslehre. B. I. s. 595.

5) Böhm-Bawerk, Positive Theorie des Kapitals. 3. Aufl., B. I. s. 21.

五

以上、資本主義の物的考察に對して更に Spiritus Capitalisticus の見地より資本主義其者を肯定せんとするものに白耳義の史家アンリ・ピレンヌがある。彼の論せし處によれば經濟史の區分せらるる各時期に於ける資本家は相互に相異なつた階級より輩出して居るのである。換言すれば其時代の資本家階級は必ずしも其前代の資本家階級から輩出せしものでない。即ち其時代に活動せし資本家で自己が新境遇に適合すること能はざることを見出せし場合には彼等は經濟上の活動から遠ざかつて一種の金權的豪族と化し、之れに代つて勇氣あり且つ企業的精神に富む新人物なるもの出現せしものである。例者、十五、十六兩世紀に於ける企業家には十四世紀に於ける企業家の子孫少く、又十八世紀末より十九世紀の初期に於て英國其他の諸國に發生した機械の發明及其蒸氣力の應用は當時に於ける經濟的狀態を一變し彼の十六世紀に見しが如き現象は更に十數倍の力を以て出現せし結果よりして從來企業界に活動せし人物は自から企業界を遠ざかつて一種の豪族となり、彼等に代つて現はれしものは企業的精神に於て鞏固なる性格に於て共に出色の新人物であつたのである。(一)

1 The American Historical Review Vol. XLX P.

日出度御入學の御制服はセヒ萬崎へ!!

萬崎は御校の御指定として最も古い歴史を持つて居りますから、ごういふスタイルが御氣に召すかチャント心得て居ります

萬崎の洋服は第一安くて仕事が大で、よくからだにキチンと合つて、地質が極めて丈夫で、裁縫が實に巧みだと既に御入學の各位からの評判で御座います。

萬崎は何しろラシヤ地を全部直輸入して居るばかりでなく、今日の騰貴以前に約定した品が澤山準備して居ますから、他店に眞似られぬ安價で出来るのです。

毛織物直輸入

# 萬崎洋服店

本店 神田區裏神保町五番地

電話神田三二六六

支店 千葉市、市場(大和橋通)

電話千葉一四九